



©Katsuji Saito

トラ保護基金 P2

- ・インドのトラ生息地支援プロジェクト・・・P2
- ・[特別支援]中央インドの
トラを救う森林コリドー調査・・・P3

トラ、ゾウ、イリオモテヤマネコの
歩みを止めないよう、
活動が続いています

ゾウ保護基金 P4

- ・インドのゾウ生息地支援プロジェクト・・・P4
- ・国内象牙市場閉鎖プロジェクト・・・P5



©Shin Yoshino

イリオモテヤマネコ保護基金 P6

- ・2026年の交通事故は現在0！・・・P6
- ・世界遺産登録地域を含む西表島海岸域での
キャンプ・たき火ツアー解禁へ向けた動き
・・・P6
- ・アンダーパスの
機能改善に向けた取り組み・・・P7
- ・2026年イリオモテヤマネコの日・・・P7



©Susumu Murata

©Susumu Murata

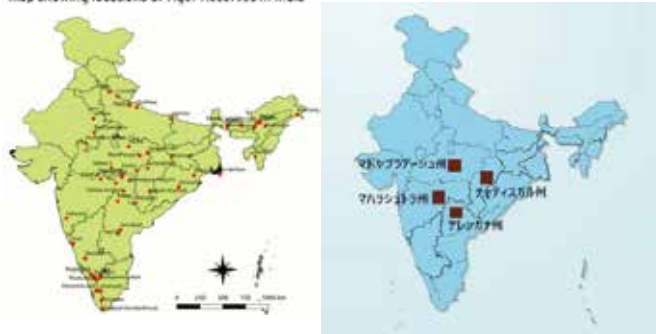
- ・2026イベント報告／お知らせ・・・P8

インドのトラ生息地支援プロジェクト

中央インド

世界のトラ約4,500頭のうち約3,000頭が生息するインド。その約6分の1が暮らす中央インドは「トラ天国」とも呼ばれる重要な地域です。もっとも数の多いカーナを始め、「ジャングルブック」の舞台になったペンチ、サトゥプラ、メルガート、タドバ・アンダリ、ナグジラ・ナウエガオン、アチャナクマルなど多くの保護地域があり、サラノキを主体とする熱帯落葉樹林がトラを支えています。

Map showing locations of Tiger Reserves in India



1. メルガート トラ保護区(マハラシュトラ州)における装備支援

メルガートは1974年に設置された、インド初の9つのトラ保護区の一つです。深い谷や崖が多く通常のパトロールが難しいため、48か所の「対密猟キャンプ」を配置し、各キャンプが30～40平方キロを監視しています。今回、太陽光発電設備用の蓄電池20基を提供し、24時間体制の監視活動に貢献しました。



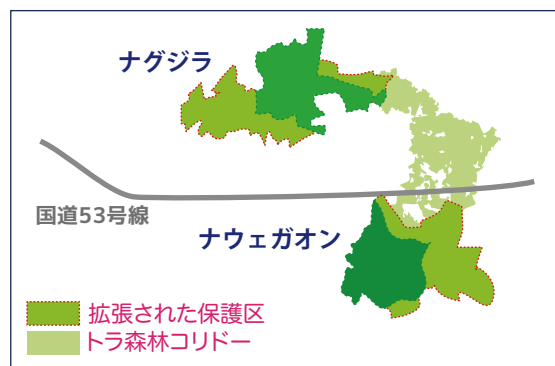
メルガート・トラ保護区へ鉛蓄電池を提供

寄付のお願い

中央インド各地のトラ保護区等から、様々な緊急支援の要請が来ています。いつまでも「トラ天国」であり続けられるよう、応援をお願いします！

2. ナウエガオン・ナグジラ トラ保護区(マハラシュトラ州)のバッファークゾーンに位置する学校での環境教育支援

ナウエガオン・ナグジラ トラ保護区は、JTEFの前身団体が2000年から支援を続けた地域で、2013年にトラ保護区に指定されています。保護区の面積は大きくありませんが、複数の大規模トラ保護区をつなぐ重要な位置にあり、中央インドのトラ保全に大きな役割を果たしています。これまでバッファークゾーンに暮らす地域住民がもたらす森林負荷を軽減しながら、人々も豊かな暮らしができるようにするため、薪の量を節約できるコンロの普及などを進め大きな成果をあげました。



2014年、ナグジラとナウエガオンは、周辺の新たな保護地域とともにトラ保護区に指定されました。さらに2016年には、両保護区をつなぐコリドー部分(1241.27平方km)も、トラ保護区のバッファークゾーンに指定されました。

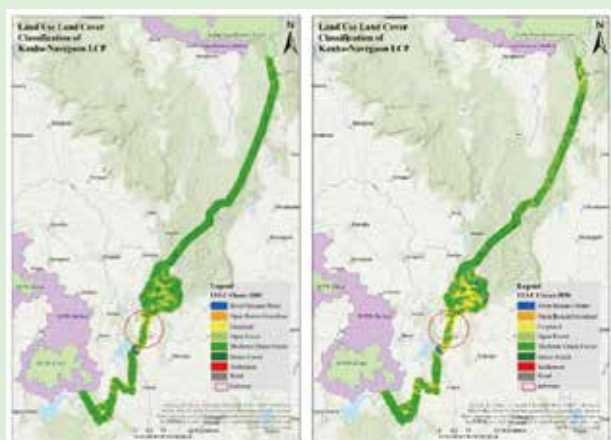
今回は、バッファークゾーン内16校の児童・生徒を対象とした継続的な自然教育プログラムを実施しました。現場での植樹活動や視察、レクチャー、ゲームを通して、野生動物から受けた被害がきっかけとなって様々な立場の人々の間に生じる対立という難しいテーマについても学びました。野生動物とともに、自分が生活する地域への理解と愛着を深め、将来の保全活動の担い手を育てることも重要な狙いです。加えて、このプログラムには、学校や地域団体のWTIらNGOとの連携を深め、保全への共通理解を広げる効果もありました。



トラなど野生動物の生息地が農地・居住地の拡大や開発によって分断される中、島のように残された生息地（比較的大きな森であり、保護区に指定されている場合が多い。）の間をトラ等が移動できるようにつなぐ植生帯が「コリドー」です。カーナ トラ保護区とアチャナクマル トラ保護区をつなぐコリドー（K-A）、カーナ トラ保護区とナウェガオン・ナグジラ トラ保護区間をつなぐコリドー（K-N）では、人口増加や道路整備、農地拡大により森林の分断が進み、狭くなってしまっているエリア（ボトルネック部）があります。WTIとJTEFは、コリドーの利用状況や直面する脅威を把握し、保全計画策定に役立てるべく、3年にわたる調査を開始しました。

1. ボトルネック部における人の影響

両コリドーとも、森林の質的な劣化が進行していることがわかりました。特にK-Nコリドーでは「深い森」がほぼ半減、耕作地や居住地は逆に激増していました。K-Nではまた、国道（高速道路がトラなどの移動の大きな障害となっているとみられました。



KNコリドーと考えられる地域の土地被覆の変化（左：2005年、右：2024年）。濃緑は深い森、緑はやや深い森、黄色は耕作地を示す。赤丸はボトルネック部

2. コリドーの野生動物による利用

K-Nでトラが自動撮影されたのは1件にとどまり、日常的な移動というよりは、主に若いオスが新たななわばりを求めて移動するために利用していると考えられました。一方のK-Aでは、トラ、ヒョウ、ナマケグマなど多様な大型哺乳類による利用が頻繁に確認されました。ただし、アチャナクマル トラ保護区に近いコリドー東部では動物の利用が少なくなっており、コリドー機能の低下が見られました。



自動撮影カメラがとらえた1ヒョウ、2トラ、3シマハイエナ、4ジャッカル（K-Nコリドー）

3. トラのコリドー利用を難しくする地域住民の森林への依存、野生動物による家畜・農作物被害

地域住民は農業と森林資源に強く依存しており、家畜被害や（草食動物による）農作物被害が発生していました。被害補償への不満も大きく、地域住民と州政府との間の将来的な対立のリスクが懸念されます。



4. トラの保全に関係する人々・政府機関・団体との協働の可能性

コリドーを長期的に守るには、州の森林局だけでなく、地域コミュニティをはじめ、農業・牧畜に関する地域団体など多様な関係者の協力が必要です。そのため、各関係者の影響力と関わり大きさをもとに、各関係者にどのようにかわるべきかが分析されました。

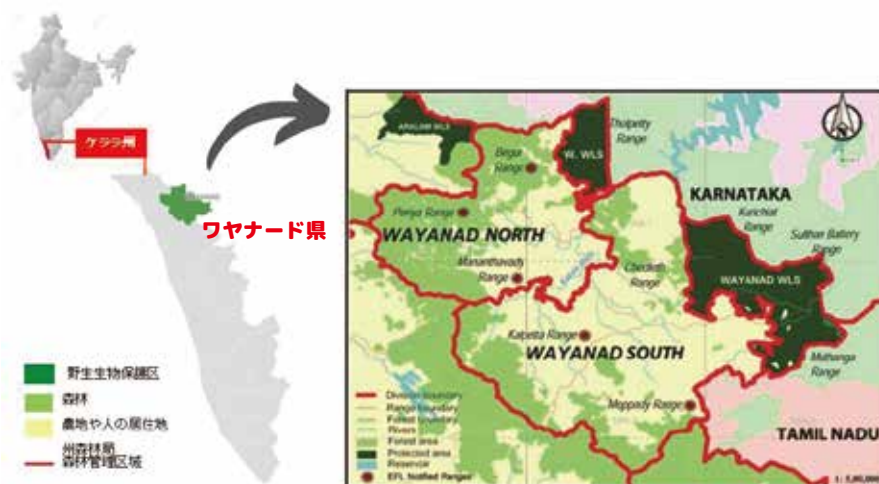
5. 調査1年目の成果と2年目の目標

両コリドーに共通して、地域の实情に合った地域主導型の保全が必要であることが示されました。地域コミュニティ、森林局、農民・牧畜民で組織される地域団体などの関係者が協力して保全計画を策定、実施することが重要です。

調査プロジェクト2年目は、分析対象をボトルネック部からコリドー全体へ広げ、その評価結果を具体的な保全対策に反映させることに重点を置きます。

インドのゾウ生息地支援プロジェクト

ここ数年、JTEFは現地パートナーWTIとの共同プロジェクトとして、アジア最大となる約6500頭のゾウ個体群生息域の一角を担う、ケララ州ワヤナード県とその周辺を重点地域としています。



ワヤナード県のムタンガ ゾウ キャンプ (駐屯地) への装備提供

ワヤナード県に森林局が設置するムタンガ ゾウ キャンプ (駐屯地) は、インド最大の野生ゾウ個体群の管理上、重要な戦略的役割を担っています。ここで飼育されているのは、特別な訓練を受けたゾウたち。人間も野生ゾウも傷つことがないように、村や農地の中を放浪する野生ゾウ

を安全に追い払います。また、密猟者や違法伐採者を監視すべく、自動車を乗り入れることのできない、起伏の激しい場所や沼にも、ひるむことなく分け入って行きます。

JTEFは、今年度、「ゾウ分隊 緊急対応チーム」へ、次の装備を提供しました。

雨具 31着、毛布 24枚、
全天候型コート 31着、
シート乾燥剤 24枚、
サーチライト 4基、
暗視双眼鏡 1個、
防水シート (10m x 10m) 2枚、
水タンク (500L) 4基、
その他



森林局のゾウ使いを乗せる、ムタンガ ゾウ キャンプの訓練された飼育ゾウ



ゾウのコリドー利用を困難にする侵略的外来植物の管理

センナスペクタビリスという中南米原産のマメ科植物が、ワヤナード県のゾウの生息地やゾウが移動に使うコリドーにはびこっています。ゾウはこの植物をまったく食べません。それがゾウの食物となる在来植物を駆逐してしまえば、ゾウは実質的に従来からの生息地を失い、あるいはコリドーの利用を放棄せざるを得ない事態になりかねません。

そこで、ゾウのコリドーの生態学的な健全性を確保し、ゾウ個体群の生息適地を回復すべく、改めてセンナを3つの区画から除去する緊急行動プロジェクトが開始されました。

センナの密集林が確認され、かなりの再生が確認された第1の区画では、2026年4月まで伐採と樹皮剥ぎ作業が行われました。その後、萌芽したセンナが散在する第2の区画、管理用トレイルからアクセス可能で（つまり人為的影響を受けやすい）、成木と苗木が混在する第3の区画へも作業が展開される予定です。



センナスペクタビリス *Senna spectabilis*

寄付のお願い

南インドでは、ゾウが広大な森の間を移動するためのコリドーの確保、ゾウにかかわる農作物被害・人身被害に端を発する地域コミュニティと森林局の対立、森林局レンジャーのトレーニング・装備不足など問題が山積みです。タイムリーな支援を行うため、ご協力をお願いします！



1. 意見書：日本の国内象牙市場：虚像と現実を公表

JTEFとEIAは、ワシントン条約第20回締約国会議（CoP20）代表団に向けて、意見書を公表しました。日本政府が主張する「厳格に管理された国内象牙市場」は「虚像」に過ぎず「現実」はどうかを簡潔にまとめたものです。そのうえで、第20回締約国会議（CoP20）に対し、限定的な例外を設けて商業目的の象牙の国内取引を禁止するよう、日本に要請することを求めました。



意見書の英語版と日本語版。フランス語版とスペイン語版も作成された。

2. ワシントン条約CoP20（サマルカンド／ウズベキスタン）の審議に参加

2025年11月24日～12月5日、サマルカンド（ウズベキスタン）で開始されたワシントン条約CoP20にオブザーバーとして参加しました。

この会議には、アフリカゾウの生息国4か国が議案書を提出、象牙の違法取引ルートに日本が登場する押収事例は無視できない程度に達していること、特に日本からの違法輸出が顕著であること、その一方で日本市場ではあらゆるタイプの象牙が合法的に販売されていることを指摘しました。結論として、「一部の品目に対する狭い例外を除いて象牙の販売を禁止する」という条約決議が求めるアプローチがとられていないと批判しています。議場では、日本が強く反発、日本の国内象牙市場は、厳しい規制により、違法取引に寄与していないと主張していました。



会議の結論としては、（日本などの）特定国を名指しにする決定は採択されませんでした。しかし、「ゾウを保護するために国内象牙市場閉鎖を全世界で実現しなければならない」という多くのアフリカゾウ生息国の意思に揺らぎがないことがはっきりと示されました。また、米国、英国、EUらから、国内象牙市場閉鎖の推進は今後とも重要課題だとする姿勢が示されたことも

収穫でした。JTEFは、今後も日本政府の象牙政策の転換に向けて、はたらきかけを強めていきます。

3. 象牙違法取引事件の摘発を受けて、緊急のプレスリリース

2026年2月2日、警視庁が無登録の象牙（全形が保たれたもの）の違法取引容疑を摘発しました。これを受けて、JTEFは、象牙が法の抜け穴を利用する登録業者の手で合法市場に紛れ込み、海外へ違法輸出されていく実態が改めて明らかにされたことに注目すべき、とするプレスリリースを行いました。



事件を報じるNHKニュース（2026年2月2日）。象牙類似の素材と偽ってネット・オークションで販売されていた無登録全形象牙を、象牙登録業者から買い取っていたのは、タイへ違法に輸出する意図で象牙を買い付ける輸出代行業者だった。



事件を報じるNHKニュース（2026年2月2日）。ネット・オークションでの別の買取先は、販売者同様、象牙登録業者だった。この業者は、買い付けた全形が保たれた象牙を、法律上登録が不要になるように分割したうえで転売していた。

2026年の交通事故は現在0！

イリオモテヤマネコの交通事故は昨年8月2日から発生しておらず、連続無事故日数は320日です(2026年6月18日現在)。やまねこパトロールで実施している西表島北岸道路の交通調査結果では、夜間交通車両の平均速度は自家用車で36.8 km/h、レンタカーは35.6 km/hといずれも過去最低を記録しており、ヤマネコの飛び出しを意識した安全運転が当たり前の島になりつつあります。野原～美原では路上に頻出している個体が確認されていますが、年間無事故を目指して夜間パトロール、注意喚起活動を強化していく予定です。



北岸道路におけるドライバーの平均速度。2025年度は過去最低を記録した。



2026年6月17日白浜海神祭前夜祭に合わせて実施した注意喚起活動

世界遺産登録地域を含む西表島海岸域でのキャンプ・たき火ツアー解禁へ向けた動き

竹富町および竹富町観光協会はこれまで、西表島におけるキャンプ・たき火行為について、指定されたキャンプ場を除き禁止であると周知してきました。2022年12月に国の認定を受けた「西表島エコツーリズム推進全体構想」でも、キャンプ・たき火行為は原則禁止とされています。また、2023年3月に策定された「西表島観光管理計画」では、遺産価値の保全を最優先とし、観光利用による負荷を現状以下に抑えることが基本方針として示されています。

しかし、西表島エコツーリズム推進協議会では、自然公園法に基づく「自然体験活動促進計画」を活用し、世界遺産登録地域5か所を含む島内9か所の海岸で商業的なキャンプ利用を認めるための検討が2022年度から進められています。



1.アトック西(第2種特別地域) 2.タカラ浜(第2種特別地域) 3.シラス浜(普通地域) 4.サバ崎(第1種特別地域) 5.網取1(第1種特別地域) 6.網取2(第1種特別地域) 7.崎山(第1種特別地域) 8.鹿川浦浜(第1種特別地域) 9.高那西(第2種特別地域)

やまねこパトロールは、この取り組みが上記計画の方針に反することや、一部の利害関係者を中心に議論が進められていることを問題視し、事業の見直しと住民への説明を求めてきました。その結果、2025年12月12日に竹富町、環境省、キャンプツアー事業者らで構成される「野営WG」による住民説明会が開催されました。



上原公民館で開催された住民説明会(2025年12月12日)

説明会では、「利用は限定的であり利用箇所の増加には当たらない」としながら、「利用による影響は現時点では分からない」との説明がなされ、事業継続の方針が示されました。2026年6月30日に開催予定の令和8年度第1回西表島エコツーリズム推進協議会では、本事業の進捗が報告される見込みです。やまねこパトロールは今後も動向を注視し、引き続き計画の見直しを求めています。

アンダーパスの機能改善に向けた取り組み

西表島の県道下には、野生動物用アンダーパスが123か所設置されています。やまねこパトロールは2020年から竹富町イリオモテヤマネコ保護基金の事業として、毎年清掃を実施してきました。その結果、多くのアンダーパスはヤマネコが通行可能な状態に維持されていますが、一部では海岸漂着ゴミや繁茂した植物により利用しづらくなっており、機能改善が課題となっていました。

そこで本年度から、JAC環境動物保護財団の助成を受け、環境省と連携して追加の清掃や環境改善、自動撮影カメラによるモニタリングを開始しました。4日間の作業で北岸地域5基のアンダーパス周辺から1tフレコンバッグ17袋分のゴミを回収し、アダンなどを伐採して利用環境を改善しました。その後のモニタリングでは、ヤマネコの利用頻度の増加も確認されています。なお、作業にはJTET 専門家アドバイザーの岡村麻生さん（大原ヤマネコ研究所）にご協力いただきました。



アンダーパス(写真中央左)に押し寄せる大量の海岸漂着ゴミ。潮汐や風の影響でパスの内部に詰まってしまい、ヤマネコの移動を妨げてしまう恐れがある



回収したゴミを大原港まで運び石垣島に搬出(2025年4月17日)



パスに設置したモニタリングカメラで撮影されたヤマネコ(2026年5月18日)

2026年イリオモテヤマネコの日

4月15日は竹富町条例で定められたイリオモテヤマネコの日。JTET/支部やまねこパトロールは、2015年の条例制定からこれまで様々なイベントを企画、参加してきましたが、今年は竹富町が企画した講話イベントで、どうぶつたちの病院沖縄の高田早紀さん、沖縄こどもの国の比嘉源和さんとともに登壇し、イリオモテヤマネコと交通事故、そしてやまねこパトロールの活動についてお話しさせていただきました。イベントには現地・オンライン合わせて80人が参加するほど盛況で、終了後にはやまねこパトロールの活動への参加希望者も。



西表島会場に集まった皆さん、そしてオンライン参加の比嘉源和さん(沖縄こどもの国)と記念撮影(2026年4月11日)

西表島では現在、野原～美原地区、高那地区などでイリオモテヤマネコの路上出没が頻発しています。これから夏休みを迎え島内の交通量も増加するシーズン。夜間パトロール活動(1回あたり8,000円の人件費、ガソリン代)を安定的に実施するためのご寄付をよろしくお願いいたします!

寄付のお願い

2026
1/24 **JTEF オンライン・イベント**
「ワシントン条約 CoP20 参加報告 ～
国内象牙市場閉鎖についての議論と
これから～」を開催。

2026
2/14 **西表島でヤマネコマラソン**
今年もやまばとTシャツを着てメン
バー全員完走!グッズ販売も好調!



2026
3/7,8 **世界野生動物の日 @上野動物園 ブース
展示 インターナショナルスクールの4年
生たちも元気にボランティアで参加。**



「第21回動物たちのSOS展～野生動物
の商業利用を考える～」@野毛山動物園
ブースでワークショップとグッズ販売。
動物園飼育係の方とコラボガイドも。



2026
4/18,19 **2026 アースデイ東京 @代々木公園**
いろいろな方が応援で買い物とボランティア
に興味をもって、ブースを訪ねてくれました。



2026
4/25 **やまねこパトロール10周年記念トーク
& 交流会 in 東京 by 高山雄介さん**
53人参加。西表の話に盛り上がりました。



2026
5/16 **笹幡マルシェ**
グッズの販売とイリオモテヤマネコの紙芝
居もボランティアがやりました。



2026
5/23,30
6/6,13 **上野動物園の「土曜の夜のどうぶつえん」**
4日間イベントでグッズ販売。ヤマネコハ
ンドブックをたくさんの方に買っていただ
きました。

2026
6/10 **トラのプレゼン@創価大学 (EEプロ
グラム) 30人の学生たちに絶滅危惧
種のトラについてのディスカッション**

Upcoming Events

7/25 **Part1 ゴウ大使 (教育プログラム)**
金沢動物園との特別コラボ。4、5、6年生
とゲームを通じて野生のゾウのことを勉強す
る。申込みは7月11日まで:
[https://www.hama-midorinokyokai.or-
jp/zoo/kanazawa/details/-2025zoutaishi.php](https://www.hama-midorinokyokai.or.jp/zoo/kanazawa/details/-2025zoutaishi.php)

8/1 **Part2 ゴウ大使 (教育プログラム)**
ズーラシアで野生のゾウの隣りで暮らす人間
のことを考え、その人達になり切ってみる。

8/22-23 **エレファントナイト
ブース展示**
@金沢動物園
17:00~19:00

10/17-18 **「ヤマネコ祭り」
ブース展示**
@井の頭自然文化園

お知らせ

7/29 **「世界トラの日」**
上野動物園
トラ舎にて
JTEF 新パネルを
展示 (常設)

9/26-27 **ナマステ・インディア 2026**
@代々木公園 ブース出展

10/12 **よこはま動物園ズーラシア
「ズーラシアフェス!」に
ブース出展**

【JTEFの賛同者】

相澤登喜恵さん (動物肖像画家)
新井晴みさん (俳優)
池田卓さん (シンガーソングライター)
井上奈奈さん (現代アーティスト)
岩田好宏さん (子どもと自然学会顧問)
牛越峰統さん (JPSA・一般社団法人日本プロサーフィン連盟
名誉顧問)
大森享さん (元北海道教育大学教授)
岡田彰布さん (阪神球団オーナー付顧問)
小川潔さん (東京学芸大学名誉教授)
加藤登紀子さん (シンガーソングライター)
蟹江杏さん (版画家)
見城美枝子さん (青森大学副学長・エッセイスト)
巨勢典子さん (作曲家・ピアニスト)
小林裕児さん (画家)
権藤真禎さん (元社団法人兵庫県自然保護協会理事長、元
神戸市立王子動物園園長)
坂本美雨さん (ミュージシャン)
沢田研二さん (歌手)
瀬木貴将さん (ミュージシャン、JTEF野生動物親善大使)
田中豊美さん (動物画家)
田中裕子さん (俳優)
田畑直樹さん (公益財団法人日本動物愛護協会理事長)
土居利光さん (前恩賜上野動物園園長、日本パンダ保護協会会長)
並木美砂子さん (帝京科学大学特任教授)

根本美緒さん (フリーキャスター・天気予報士)
南ぬ風人まーちゃんうーぽーさん (三線アーティスト)
羽山伸一さん (日本獣医生命科学大学教授)
計報 2025年7月11日にご逝去されました。謹んでお悔やみ
申し上げ、今までのご厚情に心より感謝申し上げます。
ヒサクニヒコさん (漫画家)
福井崇人さん (アートディレクター)
福田豊さん (恩賜上野動物園園長)
藤木勇人 (志いさー)さん (断家)
古沢広祐さん (國學院大学客員教授、「環境・持続社会」
研究センター (JACES) 代表理事)
前川貴行さん (動物写真家)
松田陽子さん (シンガーソングライター、国連UNHCR
協会広報委員)
水野雅弘さん (株式会社TREE 代表取締役、SDGs.TV総
合プロデューサー)
三石初雄さん (東京学芸大学名誉教授)
宮下実さん (ときわ動物園名誉園長、元近畿大学教授、
大阪市天王寺動物園名誉園長)
村田浩一さん (公益社団法人日本動物園水族館協会会長、
日本大学生物資源科学部特任教授)
森川純さん (酪農学園大学名誉教授)
山極壽一さん (総合地球環境学研究所所長、前京都大学総長、
京都大学名誉教授/進化論・生態学・環境生物学・動物学)
山崎薫さん (学校法人ヤマザキ学園理事長) 五十音順

JTEFの活動をご支援ください!

JTEFの活動は、皆さまからの寄附や会
費で支えられています。ご寄附につい
ては、税制上の優遇措置があります。また、
相続や遺贈によって取得された財産の
ご寄附、ご自身の遺言書による寄附 (遺
贈) にも優遇措置があります。

マンスリー/年間サポーター、 随時 (任意額) のご寄附

JTEFのウェブサイトからクレジットカードで簡単に寄附
いただけます。郵便振替でもご寄附いただけます。

www.jtef.jp または「トラゾウ」検索

ゆうちょ銀行:
口座番号) 00170-7-355897
加入者名) トラ・ゾウ保護基金



遺産寄附もお受けしています。詳しくはお問い合わせください。



認定NPO法人
トラ・ゾウ保護基金
<http://www.jtef.jp/>

〒105-0001
東京都港区虎ノ門 3-18-12 ス튜디오オ虎ノ門 1111
Tel : 03-3595-8088 Fax : 03-3595-8090
E-mail : hogokikin@jtef.jp <https://www.jtef.jp>
郵便振替口座 : ゆうちょ銀行 口座番号) 00170-7-355897
加入者名) トラ・ゾウ保護基金

トラ保護基金通信 vol.47
ゾウ保護基金通信 vol.44
イリオモテヤマネコ保護基金通信 vol.33
発行人・編集 : 戸川久美
発行日 : 2026 年 6 月 30 日